

清算事業団の仲間の苦闘をわがものに



1988.6.15
No.2836

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二二七二〇七

北海道物販オルクス報告日記

営業協議会 S生

勤労千葉が、闘いの最重要の柱として物品販売に取り組み、今回で五回目を迎えたが、このほど初めて全国オルクスに参加し、一週間北海道に行つた。そこでさまざまな労働組合、人々を訪ね、勤労千葉の支援をうったえ、また各地での闘いに接してみて、新ためて勤労千葉の闘いの正義性、勝利の確信を新たにしてきた。

今、全国の心ある労働者は本当に闘う方針を求めている。会社、当局の首切りの嵐は全国いたる所で労働者におそいかかり、社会党、共産党はそれに闘う気力も決意もおよそ見られず、屈服と裏切りをくり返すなか、歯をくいしばり闘いぬいている労働者は全国津々浦々に存在し、その闘いを知るにつけ、深い感銘を受け決意を新たにしたい。

「勤労千葉のビデオが見たい」

ある駅から車でおよそ二時間近くかかる海ぞいの町の地区労では「このまま行ったら大変な時代が来てしまう。勤労千葉の闘いをもっと知りたい。『俺たちは鉄路に生きる』のビデオをぜひ貸してほしい」と語り、またある清算事業団の労働者は、日刊勤労千葉を手に「俺たちも本当にストに起りたい、こういう闘いを見ると、かつての国労の闘いを思いおこす。最後までがんばる」と語った。

「清算事業団で交流会」

そして、現在約百名の国鉄労働者が奮闘しているA事業団支所を訪ねた時は、多くの仲間に出迎えられる、ただちに国労分会との交流会がもたれた。A分会の仲間は全員が広域配転拒否、再就職のための民間講座を断固拒否し闘いを貫いている。それゆえ当局の弾圧も集中し、暴力デッチ上げによる停職攻撃、事業団内での配転、そして昼休みなども助役どもが窓から監視するなど、まさに勤労千葉同様の集中する弾圧と対決し、不屈に闘いぬいている。

交流会はA分会の仲間数十名が参加した。勤労千葉からはいよいよ反撃に出た第一波、第二波ストライキの報告をし、「清算事業団の仲間をかならずや鉄路に奪還する」と決意を述べ、A分会からは、この一年余の闘いの報告が出された。その

中で、

- 一 ほこりの舞い上がる作業場にすし詰めにされ人間扱いされていない。
- 二 通勤不能な遠隔地に配転されて来たのに宿舍すらなかった。
- 三 当局は分会つぶしにやっきとなり「暴力事件」デッチ上げて停職を強行し、三五名が賃金カットを受けている。当局はそれを「しめつけだ」と平然と言う。
- 四 さらに非人間的攻撃の数々を報告した上で、「ここに一方的に追いやられたのだ。民間講座など受けられない。」
- 五 今まで不当に扱われた。首切り攻撃にあくまでこだわり闘いぬく。
- 六 今まで当局のあつせんで再就職した者は一人もいない。最後まで闘う。
- 七 不屈の決意が述べられ、遠くはなれた地の闘いであっても、国鉄労働者として共に闘いぬこうと誓い合った。

「清算事業団切りすべし」方針を断じて許さない！

全国五千名の仲間たちは、日共あけての再就職・広域配転応募など「清算事業団労働者切り捨て」の大裏切りのなか、不屈に闘いぬいている。われわれは、解雇者、事業団の仲間の怒りと苦しみを片ときも忘れてはならない。その苦闘をわがものとし、奪還する闘いに全力をあげなければならぬ。権力の手先「革マル」鉄道労連を解体し、社共の屈服、裏切りを許さず、必ずや仲間たちをとりもどすために奮闘しなければならぬ。このことを痛感した北海道物販オルクスだった。

スケジュール

三里塚・天皇・安保沖繩をたたかい
日帝の戦争政策と対決する

6.19集会

6月19日・正午・明治公園

集合同場所・千葉駅5.6番ホーム下り方11時
指定列車・千葉発11時16分6番線
快速最後部